

高原にて

堀辰雄

青空文庫

昨日の夕方、輕井澤から中山道を自動車で沓掛くつかけ、古宿ふるじゆく、
 借宿かりやど、それから追分おひわけと、私の滞在してゐる村まで歸つてきた
 が、その古宿と借宿との間には高原のまん中にぽつんぽつんと半
 ばこはれかかった氷室がいくつも立つてゐて、丁度いまそのあた
 り一面に蕎麥の白い花が咲きみだれてゐて、何とも云へず綺麗だ
 った。この地方特有らしい、その氷室の建物が大へん芥川さん
 お氣に入り、かういふ高原にああいふ恰好の別莊を立てたいなど
 と云つてゐられたので、私はいつとはなしにその前を通る度にそ
 れを一種の愛著をもつて眺めるやうになつてゐたのである。

芥川さんが輕井澤にいらしたのは確か大正十三年と大正十四

年で、十三年の夏は私は金澤の室生さんのところに長く滞在した
歸りにちよつと此處に寄つたきりだつたが、翌年には私もずつと
滞在し、毎日のやうにお會ひしてゐた。その十四年の夏もなんだ
か雨が多くて、ちやうど今年のやうな不順な陽氣であつた。それ
でも私はよく芥川さんのお伴をして峠や近所の古驛などを見てま
はつた。ことにいま私のゐる追分宿などが、すっかり寂れ切つた
なりに、昔の面影をそつくりそのまま残してゐるので一番お氣に
入られてゐたやうであつた。輕井澤のやうなハイカラなところも
一方ではお好きらしかつたが……

或る明るい眞晝、私達が自動車でこのへんまで來かかると、硝
子にしきりに何か青いものがぶつかつてくるので、何だらうと思

つてよく見ると、それが無数の、瑠璃色の翅をした小さな蝶だつたりしたこともあつた、——そんなことを私は昨日自動車の中で一人でひよつくり思ひ出してゐた。

又、夏の末になつてから、外人に賣りつけに立派な洋犬を何匹もつれてきてゐた犬屋が、輕井澤ホテルで賣残りの犬のオークションをやつたことがあつた。有名な犬嫌ひの芥川さんも私を連れてそれを見に行かれた。そのとき私は芥川さんの手帖にその犬の名前だの値段だのをそばから書かせられた。數年前、全集「別冊」編纂のため、それらの手帖を整理してゐるうちにその箇處に出合ひ、その私自身の書いたものまでも寫して置くべきかどうかになり迷つたことがある。そんな箇處の近くには、又、芥川さんが

當時思ひつかれるそばから私に話して下さったコントのやうなもの、——たとへば八百屋の小僧が西洋人の落して行つたパイプを拾つて煙草の代りに玉蜀黍の毛をそれにつめて吸つてゐると云つたやうな話の心覚えのやうなものまでが見つけられたのだつた。

數日前、千ヶ瀧にゐる友人が私のところに來ての話に、淺間山麓一帯がその氣候とか植物の分布状態から見るとスカンヂナヴィア地方に酷似してゐるといふ話が出て、それから話がスカンヂナヴィアの文學のことに移つて行つたが、私はそのときふと、芥川

さんもその北方の文學をかなり愛讀せられてゐたらしいこと——
いままで私があんまり氣にもとめてゐなかつたそんな一面に、は
じめて氣がついた。芥川さんはストリンドベルク、イプセンは勿
論のこと、私の知つてゐる限りでも、ビオルンソン、ラゲルレフ、
ハムスンなどの作品は大抵讀破せられてゐたのである。いまでも
一部の人達に愛せられてゐるキイランドなども好きだつたらう
と思はれる。

最近私はリルケの「マルテ・ラウリッツ・ブリツゲの手記」と
いふ小説を非常に興味深く讀み出してゐるが、それはスカンヂナ
ヴィアの文學——ことにキエルケゴオルやヤコブセンの作品に傾
倒してゐたリルケのさう云ふ一面の最もよく現はれたものと云つ

てゐる評家がある位であるが、その小説の主人公であるデンマアクの若い詩人が巴里で死を前にしながら書きつづつた、その凄惨な感じのうちに一脈の云ひしれぬ *sweetness* を湛へた手記を讀んでゐるうち、私はしばしば芥川さんの「齒車」を思ひ浮べてゐた。しかし、私はさういふ相似が何處から來るものか、今まであまり考へなかつたのである。私はいつかこの二つのもののもつスカンヂナヴィアの要素をもつとよく見つめてみたいと云ふ氣がしてゐる。

「齒車」の最後の章にストリンドベルクと同名異人の瑞典人のことがちよつと出てくる。それとどうも同人らしい六十がらみの老人が一人、此頃よく輕井澤の町をいかにも陰慘な身なりで、ひ

どい猫背をしながらぶらついてゐる。何處かのドイツ語の教師ださうだが、シュテルンベルヒ (Sternberg) といふ名前である。もしかしたらそれを芥川さんはストリンドベルクと聞きまちがはれたのではあるまいか。その老外人も被害妄想狂かどうかは分らないが、口笛がひどく嫌ひだと見えて、子供なんぞが口笛を吹いてゐるといきなり近づいていつてそれを無理に止めさせたりしてゐるところを、私はこの夏も二三度見かけたことがある。

青空文庫情報

底本：「堀辰雄作品集第四卷」筑摩書房

1982（昭和57）年8月30日初版第1刷発行

初出：「芥川龍之介全集 第一卷月報」岩波書店

1934（昭和9）年10月15日

入力：tatsuki

校正：染川隆俊

2011年3月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

w.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

高原にて

堀辰雄

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>